

環境保全の大切さ知って ～小学生が中山間地で観察会～

梅雨が明けたかと思うような連日の暑さの中、7月3日に南三陸町の中山間部にありやどうじした入谷童子下地区で、中山間地域等直接支払事業に取り組む「新童子下集落」が水田の生き物観察会を開催した。

この取り組みは地域の入谷小学校児童を対象に、同集落と「南三陸米地産地消推進協議会」が共催し、今回は13年目の開催

となる。同小学校も総合学習の時間として当初より毎年参加しており、地域連携型の総合学習として定着している、県内でも数少ない事例だ。



今年も3年生11人を対象に開催されたこの観察会で、参加した児童たちは、水路や田んぼでカエルやアカハライモリなどを見つけては元気に捕獲していた。参加者のひとり佐藤理人^{りひと}くん（9歳）は「今日は楽しいです。いろんな生き物がいるので観察して勉強したいです」と元気に答えた。

この観察会を長年続けている新童子下集落の代表阿部博之さん（60歳）も「中山間地域等直接支払制度の事業の一環として、この観察会を通して子供たちの学ぶ学校の直ぐそばでこうやって自然に触れながら、環境保全の大切さなど何か感じて成長してもらえればうれしい」と笑顔で話していた。

【記事提供：南三陸町農業委員会】